



同窓会会報平成二十四年秋号

礼について

同窓会長 久保村昭衛



東京都立中野工業高等学校同窓会も創立以来第六十七回となりました。幾多の困難を越えつつも他に恥じない立派な明るい同窓会になりました。会員の皆様方のご協力、ご指導の賜と心より感謝しております。記念すべき七〇周年を迎えますのもあと二年と数ヶ月となりました。

本年の一番大きな出来事として、は都立中野工業高等学校のホームページを更新したことです。是非ご利用して下さい。会員の皆様方に細かく同窓会の活動の情報等を入力してありますので大いにご利用下さい。

今年には礼に付いて書かせて頂きます。私の出会った、不朽の名言の中

で「礼儀作法というのは各自が自分を写す鏡である。」挨拶は単なる儀礼ではない。さりげない日常の言葉のかけ合いによって生じる純粋な人間の命の言葉であると言ふ身体で語り身体で聞く命と命の触れ合いだと言っている『挨拶』は相手に近づく事『挨拶』は引き出すこと。この触れ合いこそが人間同士に最も大切な事である。

相手を心から敬愛することは何を行う場合にも大事な心であり、決して欠かせぬものである。相手を思いやり声をかける。この過不足なき法が処世上最も必要なことであろうと思います。

「親しき中にも礼儀あり」「三枝の礼あり」と言われる羽をつけて空に放り出されたような鳩でも小鳩は親鳩より三枝下の枝に止まると云う。礼は天地人に通じての根本の道である。日月星辰に美しく輝いていることは天の礼であり山水草木が生え茂っているのは地礼であろう。上品な礼儀は人の美しい外套とも云えようそしてわれわれはヤヤもすると同輩と後輩に対しては礼を失するものであるのが

万人、万物に対してはそれなりの正しい礼儀作法をもつてのぞまなければならぬとこそ思うものであります。

終わりに同窓会も心して一層努力して頑張つて参りますので御指導御協力をお願いします。皆さん元気で頑張つて下さい。

着任の挨拶

学校長 佐々木哲



中工ルネサンス2012 いよいよ始動!!!

「元氣なあいさつ・明るい笑顔・緑あふれる中工」に是非お立ち寄りください。

一万名に達する同窓会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私はこの春、第二十代校長に着任しました佐々木哲（さとし）と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。

今年で創立六十六周年を迎えた中工全日制課程は、さらなる未来へと視野を拡大し、学校改革に着

手しました。「中工ルネサンス」と名づけた改革は、本校で学んだ生徒ならではの能力と感性を持って、ものづくりを通して社会に貢献できる人物を育むことに主軸を置いていきます。

私たちが心しているのは目指す学校像にある「ものづくり教育を通じた人づくり」をいかに現代に即した形で具現化していくかという事です。

中工を果立っていく生徒たちが、逞しくかつしなやかに、そして自信に満ちて生きていけるように、その力を養うために知性、品性、感性といったあらゆる方面から中工のなすべき教育を見つめ直し、構築し、実現していく所存です。特に「学力を養う」ことは、一人ひとりが将来を設計していく上で基本中の基本と捉え、中工独自の教育システムを開発して指導を強化してまいります。

また、「自ら学ぶ意欲」こそ、一生涯を前向きに生き、現代社会で活躍していく根源となることを重視して、主体的に学ぶ自学自習の姿勢作りにも力を注いでいきたいと考えています。そして改革を進めて行く過程で決して忘れてたくないのは尊い伝統の重みです。これまで積み上げて来た伝統を「元

気なあいさつ・明るい笑顔・緑あふれる中工」というキャッチフレーズとして全生徒・教職員で共有し教育活動を進めてまいります。

これから全教職員一丸となつて「新しい中工」に向かって力強く歩みを進めてまいります。

どうぞこれからの中工にご期待ください。

なお本校の情報は、同窓会のご支援で七月三十一日にリニューアルした本校公式ホームページで配信しております。是非ご覧ください。

初めまして

24年度PTA会長

宮沢佐和子



同窓会会員の皆さまにおかれましては、平素よりPTAと子供たちへのご支援を賜り、また、今年度より中野工業高校のホームページ（以下HP）を新しくしていただき、深く感謝を申し上げます。新しいHPは、同窓会のページもあり、中工同窓生と現役学生を結ぶ

絆となることと期待いたしております。

「育て四訓」という言葉があります。乳飲み子からは肌を離すな、

幼児は肌を離して手を離すな、少年は手を離して目を離すな、青年は目を離して心を離すな、

しかし、思春期に入り、我が子が急によそよそしくなる。帰宅が遅くなり、会話が少なくなる。それでも、もう大人だからと、親の方もどこか、諦めて言葉を飲み込んでしまう。または、子供に強い口調で接してしまい、気まづくなつてしまう。どの家にもあるような、それでいてなかなか簡単なことではない、そんな光景です。

『ミラー効果』という言葉があります。心理学では『同調効果』とも言います。相手の表情に共感を得てしまうことだそうです。そのため、

親が難しい顔をしていれば、当然のように、子供だつてふてくされ顔になります。その逆に、親が笑顔でいれば、最初はムスツとした顔もだんだんと笑顔になっていきます。

ただ、子供が変わるのを待つだけでなく、親から変わっていく。だからこそ、我が家は朝の挨拶、子供を笑顔で迎え、そして朝食と一緒にとり、その時に学校の事や

友達の事などを聞く様にしています。もちろん、朝食と一緒に摂れない家庭もあるでしょうし、最初はなかなかうまくいかないこともあるでしょう。時には意見の食い違いもあるでしょうが、子供と向き合うことは、未来と向き合うことです。「つらいのは、うちだけじゃない！」と、がっちり真正面から向き合っていれば、必ず、笑顔で応えてくれる日がきます。

PTAを通じて、子育てを共有する友人を作ること。

各家庭のいろいろな環境に合わせて「我が家では」のコミュニケーションを考えて実行してみることをPTA通信で、会員の皆様に提案させていただきます。

中工祭では、同窓会とPTAが共催し、卒業生の歩みの展示と駄菓子販売をいたします。

東日本大震災で被災した 岩手県立宮古工業高校に向け、募金活動を行います。同校は、宮古湾に位置し 堤防をのりこえた津波により、校舎一階部分は甚大な被害を受け、震災から5ヶ月間他校で体育館を借り、授業をおこないました。

HPに被災写真や、同窓生に募金を呼びかけや、支援への感謝をのせるなどして、情報を発信しています。

同窓会の活動の様子や、同窓生同志の情報交換の場として、本会報を発行しております。

同窓会活動資金として同窓会各年度（毎年）の会費二千円の納入をお願い致しており、毎年多くの方々より賛同を戴いておりますがまだまだ少数です。約九千七百名

ます。HPはたくさんの人を結んでくれます。HPを見て 同窓会に参加する方が増え、会がますます活発になりますようお願い申し上げます。

中工PTAは、子供たちから心を離さずに、ともに、楽しく成長していきたいと願い、活動していきます。

母校のホームページがリニューアルされました。

念願であった同窓会のページも開設され、九月十四日より運用開始となりました。より多くの情報を提供できるよう努める所存でございます。東京都立中野工業高等学校で検索していただき、ご閲覧下さる様お願い申し上げます。

ホームページ開設のお知らせ

事務局よりのお願

事務局長

事務局長

事務局長

事務局長

事務局長

事務局長

事務局長

事務局長

事務局長

の同窓生の通信費、母校の部活動等の支援に資金が必要です。諸般の事情をご賢察の上、同窓会会員各位におかれましては、各種お知らせの際同封の払込取扱票にて「会費二千元」を納入して下さい。様お願い申し上げます。

また、住所移転の際には是非とも事務局までご一報下さる様お願い致します。

現在、同窓生の住所の追跡調査をしております。同期・クラスに関係なく同窓生の所在が分かる方はご本人の了解を得てからご一報下さる様お願い致します。

問合せ先事務局
350-1304

狭山市狭山台2-25-12

田中 正二

Tel : 04-2958-4698
Fax : 04-2958-9729

E-mail : NQDD06772@nifty.com

行政機関の委員会とは

3 M 桑原 昭四郎

現職を離れて十二年、これまで種々な経験をしてきたことのうち、行政機関の委員会というものについて触れてみたい。

まず、一般社会では種々な事業

所で「特定の事からの選択・調査・審議などをする」ために委員会を設けることが日常的に行われていることは一般常識として考えられている。普通の上場会社では、上層部よりのテーマまたは会社の目的に沿ったテーマの選択、委員の人選、そのテーマに関連する現状確認、市場ニーズ、他社動向（特許の有無を含む）、検討期間、市場参入時期、市場に参入するための費用（研究開発費を含む）などを調査し、審議して結論を出すように進められていると思われる。この審議の過程で不具合事項が認められた場合は、その対策も議論し取り纏めることとなる。

一方、行政機関では、予算の段階でテーマは決められており、委員長および委員の人選と審議目的とその内容（実験などを含む）と審議期間を定めてスタートするわけですが、委員長は委員の互選で決めるのが一般的です、委員会発足前に行政側にて内定しておき、第一回目の委員会で事務局（行政担当者）または或る委員（行政側に賛同している人）が委員長推薦発言を形式的に提案し全委員の賛同を得るように仕組まれている。

また、委員長には委員会の取り纏め方針を事前に打合せされている

るようである。委員の人選は、当然主催者（行政側の担当者）が行うことになるが、学者（大学教授、準教授）、地方自治体、関係する法人（特殊法人、社団法人）などから選択もしくは推薦された人と行政担当者が委員となるが定数に対し行政側の取り纏め賛同者の数が60〜80%となるように選ばれている。

なお、行政機関で予算計上がされていないが急に取り纏めをしなければならぬテーマが生じた場合は、特殊法人など関係外部団体に依頼して対処するようにしている。

委員会は事務局で準備した検討資料で始まり、審議、修正、追加などを繰り返して結論を導き出すことになるのです。審議中の反対意見は殆んど無視され、酷い時には実験データ中不具合の結果のデータは削除され、委員長にも見せず、或る委員から取り纏め内容に適さないデータがあることの発言で、委員長が当惑することがあり調査確認することで委員会を終わらせたが、その後、その問題についての説明がなされずに委員会が結審されたこともあった。

つまり、殆んど資料は行政機関の事務局で作成されており一部分が一部の委員で作成される程度

で、委員会の結論は予め決められていると考えられる。

本テーマは何を伝えたいのかと云えば、法律（技術内容を含む）の改正を行うに際し委員会を設け議論した結果を踏まえて改正したものであるという証をするためのもので、委員会の在り方に一石を投じるためのものである。

欲をいえば、委員長は中立的な立場で、委員は賛同、反対それぞれ半数とし議論内容を委員長が判断して決めるようにすべきではないかと思う。

現在の行政機関の委員会の設置の在り方が一般の人に分かって頂ければと思いい記述したものである。

定年後も「少年の心」で

8 M A 樋口 豊



2008年10月、東京・浅草区にある「少年の心」で撮影された写真。

定年後の余暇の過ごし方は個人個人で異なり千差万別ですが、私の定年後の暇つぶしの一つをご紹介します。

定年になって、さてと思った時、少年の頃に、やりたくても受験とか経済的な理由で出来なかった事があり、それが模型作りと切手蒐集であった。工高1年の頃、海外文通をしていたアメリカとドイツの少女からいろいろな使用済の記念切手をもらった事が興味を持ったきっかけであった。

切手はご存じの様に通信料金前払いの証紙ですが、国家が発行する一種のプロパガンダで、特に記念切手はその国の歴史・文化・風俗・芸術・社会・政治などが凝縮されていて、興味ある様々な情報を持っています。

切手の集め方は、これまた個人個人で異なり千差万別ですが、大きく分けると二つに分かれ、その一つは「伝統郵趣」と言われ切手の発行された順序に従って収集するもので、二つ目は「トピカル」と言う収集で印刷された図案(デザイン)別に収集するものです。

図案と云っても、「スポーツ」「花」の切手でも無数にあり、「絵画」「音楽」「動・植物」

「水産」「昆虫」「陸・海・空の乗り物」なども同じで無数にあります。

私はその図案別の切手を使って、或る主題(テーマ)に従って物語を構築(テーマチック作品と言います)する文化的な趣味にはまって、切手に触らない日はないくらいの毎日を楽しんでいます。

元の職場の同僚や級友達に何をやっているかと聞かれて、切手蒐集をしていると言ったら、「なんだ、成長してないな」と笑われましたが、確かに子供のシール集めに似てるので子供心がないと出来ないし、私には少年時代の果たせなかった夢の実現なのです。そして、どんな欲に何でも興味を示した少年時代の様に、“少年の心”を持ち続けることが、定年後の「脳の老化防止」にも一番良いのではと思っています。(笑)

定年後から始めた切手作品(1作品、A4リーフで80枚程)作りが20程になり、収友達から「作品をホームページで紹介したら」と薦められた事もあって、この程ブログに切手作品のリーフを貼った簡単なホームページですが順次立ち上げました。稚拙な作品で失礼を顧みずご紹介をさせていただきますが、ご興味のある方にご観

覧賜れば幸いです。

ホームページのアドレスは、<http://blog.goo.ne.jp/higuchi-stream>で、「石油産業150年の歴史」が見れます。また、そのブックマークから他の作品群、切手で見る「第一次世界大戦」、同「第二次欧州大戦と戦争被災」、同「昭和の戦争と銃後」、同「飛行機100選」、「世界民間航空発達史」、「ツェッペリン飛行船物語」など20程が見られます。

定年退職した会社のOB会のホームページの掲示版には、退職者のブログのサイトが紹介され、親しい人達の余暇の過ごし方が垣間見れます。手軽にデジカメをぶら下げて散策に出かけ、道すがらの風物や道端の野草の花を接写して気軽に自分のブログに書き込んでいきますが、いつの日か、中野工業高校の同窓会のホームページにも、同窓生諸氏のホームページやブログのサイトが紹介され、ご活躍の様子が拝見出来れば嬉しいと思っております。

人権を考える

10F 寺田龍也

私は、昭和15年(1940年)に生まれ、昭和31年中野工業高

校入学、昭和34年食品科を卒業しました。

本会報平成23年秋号で元校長石坂政俊氏が校史を詳しく述べていただき、改めて在学当時を思い出すことができました。

校地も昭和30年中野区桃園町から現在地の野方に移ったとのことですが、私の在学中は未だ週に1日は、区立桃園小学校が使用を始めていた旧校舎で授業を受けました。

学校生活では当時の恩師真田先生の引率で奥秩父登山したことを覚えています。中工に山岳部があったと思います。この登山は、仲間の大切さなど後の私の人生に大きな影響を与えてくれたものであり思い出は尽きません。

昭和34年3月に中工を卒業しました。卒業は、単位不足・追試をうけや々と卒業できました。学業不振の生徒であったわけですが。

その後の学生時代は入学は法学部、卒業は「山岳部」、登山にのめりこんだ毎日でした。海外登山、ヒマヤラブームでもあり私の青春時代の中でも最も熱い時代であったと思います。時代は60年安保闘争の真っ最中でもありかなり世の中は騒々しい雰囲気でした。

そんな生活の中でも登山中心の

生活は変えませんでした。

冬山登山のために、秋のうちに登山コース沿いに食料や燃料を荷揚げしますが中工の授業で受けた微生物の知識や缶詰類の製造工程、開缶検査などの知識が生きることもありました。

東京オリンピックでは体育協会の役員としてその一端を担い教育委員会の社会教育関係の手伝いなどをしました。

就職は趣味以上に生活の一部になっていった登山をすることも考え、物作りの現場には向かないと考え公務員になりました。

就職先の法務省組織の中の民事行政事務（登記、市区町村と連携した戸籍管理、国籍の得喪など）、人権擁護事務（人権問題に関する啓発、調査、相談など）に携わり主に法務局に勤務しました。

山梨、神奈川県など単身赴任の生活もしました。人権擁護の仕事では学校における体罰問題などで学校現場に向き、子供のいじめ問題、警察、刑務所における問題、えせ同和対策などの仕事をして2000年3月（平成12年3月）退職しました。1940年に生まれ世紀も変わる2000年に退職したわけです。

最近深刻な子供の問題が増えて

います。児童虐待、少年の自殺問題などが社会問題として注目を浴び続けています。子供の人権問題では仕事で多くのケースを取り上げました。

私の生い立ちをすこし振り返ってみると、赤貧の生活（戦後の一時期生活保護を受けた経験もあります）、私自身中学・高校時代を振り返ってみると、学校では落ちこぼれであったと思います。

法務本省は課長以上全員検事・判事出身者です。典型的な優等生の「塊」と一緒に仕事をするわけです。彼ら「優等生」だけでは、人間のさまざまな営みから生まれる問題について、対象者と同じ目線で物事を見ることなどが足りないことが多いわけです。そんな時所謂私の「遊び」の経験が起きたと思っています。彼ら「優等生」と仕事をすることに慣れるまでは少々ストレスのたまる職場でした。人権擁護の仕事は充実したものであったと思います。多様な問題が持ち込まれる仕事ですが、子供の問題、精神疾患者からの問題をはじめ「法律なんでも相談」ですから事例ごとに、社会的、経済的背景を洞察しながら人間個々人の価値観など全人格的視点を考えながら仕事をする必要がありました。

私個人の人間性を問われているような毎日であったと思つています。しかし貧乏、落ちこぼれ者の感情をわかること、さまざまな人間の目線だけは、幸か不幸か実体験として持つていたと自負していたことが自信にもなり、役に立っただなと思つています。

高校時代の先生、仲間たちがいて今日があるんだなあと古希を迎えた一昨年のクラス会の面々を見て感じました。

現在は司法書士として不動産登記、会社登記、法律相談など主に法務局、裁判所へ手続きをする仕事をしていきます。

最後に、職業高校の先生方は、教育に加え就職の面倒まで見ると言う大変な重責を背負込むなど教師として大変と思います。我々OBが、中工魂を忘れずに生きることに中工・恩師への恩返しでもあることを忘れずに頑張ろうではありませんか。人生に停年は無いのですから。OB会の発展を祈念します。

「還暦」を迎えて

22FB 守屋 茂美

毎年「同窓会会報」が届くと、中工生だったことを思い出します。

私にも高校生だった頃があつて、それなりに青春時代をたのしんでいたなあ、などと懐かしいです。

食品工業科を卒業して四十二年になりました。この夏、六十才です。とうとう世でいう「還暦」です。若い頃には、還暦なんて遠い先のことで、すごい年寄りになるかのように感じられていたものです。そしていざわが身に巡つてきてみると、時の流れの早さと来し方をいろいろと思ひ、とても感慨深いものです。

六十才という年は、勤め人なら定年を迎えたり、社会で頑張ってきた人なら一休みしたり、それぞれいろいろな意味で、人生の区切り、これからの考える年というところでしょうか。まわりをみても、今の六十才は、肉体的には、男も女もとても元気だと思ひます。

世の中には健康食品が溢れ、健康に関する情報もたくさん流れています。人々はそれらに敏感だし、歩いたり走ったり体力維持にも努力している人が大勢います。医療も薬もどんどん進化していて、そのおかげか、私たちの寿命も延びています。

私は十五年前に乳ガンを患いました。手術をして、抗ガン剤治療も受けましたが、その後二度にわ

たる骨転移で、放射線や化学療法による治療を行いました。それでも再発により骨折で金属で補強する手術をしました。しかし、昨年の暮れに手術をした先を骨折して義関節になってしまいました。そして息つく暇もなく甲状腺にガンがあることがわかり、今年五月に摘出手術になり、体の部品がまたひとつ無くなりました。十五年前、ガンがわつかった時には、死をイメージして、いろいろなことが頭をよぎり、せめて六十才ぐらいまでは生きていたいと思っただけです。

そんな私が、この夏、六十才を迎えることができました。病院と縁の切れない私を、心身共に支えてくれる夫や家族、医師、同じ病気の仲間多くの人々に感謝の気持ちでいっぱいです。

卒業後、公務員になって十二年間、事務職員として小学校と中学校に勤めました。結婚を機に退職し専業主婦になって現在に至っています。これまで、子育てと親の介護と自身の闘病で、いつも全力で走っていたように思います。でもこの辺で、ちよつとひと息ついて、先のことを考える時なのかもしれない。これまで積み上げてきた知識や経験、出会った人々との繋がりは、一生の財産です。

それを大切にしながら、自分の身体と折り合いをつけながら、「古希」をめざして今度はゆっくりと歩いていきます。

人生は楽しい

23CB 木口敬三

私は1953年、東京都荒川区に生まれ、69年4月に中野工業高校化学科に入学しました。

三年間の学生生活もあつという間に終わり卒業、就職。当時は高度経済成長も末期を向かえ、経済に暗雲が立ち込め始めた頃ですが、

選り好みをしなければ勤め先には事欠かない時代でした。周辺で次々に職場が決まって行く中、将来の見えない自分は、ただうろたえるばかりで、置いて行かれるのが不安で、数人の友人と共に大手の企業に就職、勤めながら自分を見つめ考えました。

結果、勤め人には向かない自分は自身で稼ぐしかないと思い、手に職を付ける事を考え一年で退職、技術情報誌から現在の職業である歯科技工士の仕事を見つけました。親に負担を掛けられないので専門学校は夜間に通学、昼間は同じ技工の仕事をして三年間で卒業、国家資格を取得して十年間の下積み、

気が付くと同年代のサラリーマンとは比べ物にならないほどの給料をもらい、どっぷりと甘い汁に浸かった自分がありました。

このまま職場に頼っていたら独立など、とうてい無理だ。結婚して二児を儲け、家を新築してローンを抱えていた状態で、無謀とも言える開業だった。

得意先のあて無しコネも無で中古のバイクを買いセールスに走った。案の定一件の仕事も取れなかった。暗く寒い冬が過ぎサクラが咲き暑い夏が終わり、秋風が吹く頃、同業の友人から得意先を紹介された。営業の下手な自分は、とにかく誠意を持って真面目に働くしかない。他より精度の良いものを懸命に作った。

暫くすると我が家に歯科材料を卸している業者から新規開業の医院の紹介があった。法人の医院で、分院もあつたので一気に仕事が増え気持ちも色めき立った。医院も軌道に乗る仕事も順調に増えてきた。初心を忘れず仕事に打ち込んだ。初め、風の便りに仕事の依頼が飛び込んでくる。あつという間に飽和状態になった。

得意先もほとんどが新規開業だったので、時間と共に仕事量も増し、新規の医院は頭を下げて断った。

歯科技工所が医院の依頼を断るなんて事は考えられないことである。早朝六時から仕事で九時に営業に出て昼に帰り、二時まで休んで明け方三時から四時頃まで仕事を

する日々が二十年ほど続いた。まともな生活ではなかった、子供とも遊んであげられない、布団にも寝られず合間に床で仮眠するよ

うな生活で、何度か得意先からの撤退を考えたが時間に追われ、行動を取る余裕が無く、心身ともに疲れ果て壊れる寸前であった。仕事が終わって眠るのが怖かった、眠るとすぐに明日が来て仕事が始まるからだ。就寝前の僅かな時間に酒を飲み好きなものを食べた。持前の体力と精神力でなんとか持ち堪えてきたが限界だった。

ある日、仕事で顔面に糸くずのようなものが付いている感じがあつたので、指でつまんでみたが取れない。洗顔してみたが、まだ感触があるので鏡に映してみると何も無く、こんな症状が出るようになってきた。同業の先輩に話してみると、メニエル病の兆候だから気を付ける。と、言われた。極度の疲労とストレスで発症する耳の病気で一度掛かると完治することは無く気圧の変化などで再発するそうだ。先輩も、この病に掛かり、い

まだに薬の世話になっている。

症状は回転遊具に乗ったように目が回り嘔吐するそうだ。何とかしなければ。と、考えても容赦なく入ってくる仕事に振り回され何も出来ない。

もうだめだ、撤退を考え始めた頃、工賃の安い業者が参入して法人の仕事の根こそぎ持っていかれた。一気に仕事が半分以下になった。普通なら一家の一大事である、しかし私は安堵の思いがしました。神様が、もう、その位で良いだろう休みなさい。と、言ってくれている様に思えた。

改めて我が身を見つめると、就寝前の飲み食いに運動不足で、無残な体形と最悪の健康状態の自分があった。食生活と生活パターンを改善し、運動も加えて三年間かけ健康を取り戻し、現在は借金も無くなり、子供も手を離れたので休日にはロッククライミングやマラソンレースに参加し、月に一度のお酒の会や、食いしん坊仲間のグルメの会などを楽しんでいきます。フルマラソン四時間三十七分で完走、来年は北海道サロマ湖百キロマラソンに挑戦する予定です。

色々な人に助けられてここまで来ました。

感謝です、人生は楽しい。



クラス会の幹事さんへ
同窓会の輪を拡げる
為に、クラス会を開催
した際には、クラス会
便りと出席者の集合写
真等を同窓会事務局ま
でお知らせ下されれば幸
いです。



役員会の様子

H24-8-25



体育祭の風景



「卒業生の歩み」展示の前でPTAの方と



H23-10-30



H24-9-28

卒業生の歩みについて

作成の趣旨

本校の卒業生は、もうじき一万人になります。
第一期生は昭和25年に卒業しました。第六期生までは、中野駅近くの桃園町で卒業しました。第七期生から、現在の野方の地から卒業して行きました。
多くの卒業生が、各分野で力を発揮しております。この学校で学んだ事を基礎にして、自分の道を進んでいます。

母校文化祭「中工祭」は毎年11月3日文化の日前後です。

「同窓生のコーナー」（例年2階の教室）に「卒業生の歩み」と題してA3判パネルにて展示しています。いま、ここで学んでいる生徒たちの参考になることを願っています。さらに先輩から生徒や先生に対する希望も書きました。

卒業生の皆様へ

今後とも在校生のために役立つようにしたいと考えています。

より多く「卒業生の歩み」を展示できるように、積極的なご投稿をお願い申し上げます。原稿

（A4 サイズ）は事務局にお送りください。（3年後の創立70周年記念誌にしたいと思います）

参考までに2名の方の「卒業生の歩み」を掲載いたします。

卒業生の歩み

3 F 昭和27年卒業 海野 清

生徒達に 今が一番大切な時期です。体力を付け、勉強に励んで下さい。

先生方へのお願い 生徒達の相談は乗る様に心がけて下さい。多忙でしょうが前向きに考える様指導をお願いします。

卒業後の歩み 昭和31年 東京農大農芸化学科卒業
昭和31年 石井食品(株)研究室に入社
昭和41年 船橋食品(株)に入社
 パンの製造と営業に従事
昭和45年 小玉株式会社入社
 糖尿病薬インスリン
 抗テンカン薬、頭痛薬
 抗凝固剤ヘパリン 造影剤など
 特殊な薬を主体に病院に宣伝する
平成7年 定年退職

近況 毎朝1時間のウォーキングを約20年間継続して実施
 (一日一万歩目標)

月曜日は生涯スポーツ健康科学研究センタージムにトレーナーとして参加、多くのシルバーの人々の指導をしています。

火木は東大生涯スポーツ健康科学研究センターに行き体力トレーニングに励んでおります。

日曜日は障害福祉センターにボランティアとして障害者の手助けに行っています。

夫婦とも認知症にならない様に頑張っています。

卒業生の歩み

10MA(機械課A組) 昭和34年卒業(1959年) 棚橋 一三

生徒達へ 大学に行くか社会に出るか。これからの人生を決める大事な高校3年間。よくこれからのことを自分で考え、人生の先輩に聞き結論は自分で出す。社会に出る人は、就職という大関門をくぐり抜けないといけない。しかし学生の中に社会を知るといことは難しい。ただ「社会に出て困難にぶつかってもくじけないぞ」という強い気持ちを持って欲しい。仕事は会社に入れればいやと言うほど鍛えられる。自分自身に甘えることなく精神的に強くなっていくこと。

先生へのお願い 就職する学生への徹底したフォローをお願いしたい。まず一步社会に踏み出す未知の世界へ行く不安感があると思う。私もそうだった。それによって、これからの人生がガラッと変わる。生徒に色々な経験をさせて印象深い高校3年間にしてほしいと思います。

卒業後の歩み 昭和34年(1959年)東京ガス入社。入社後東京ガスの渋谷営業所を最初に管内事業所を多く転勤し勤務。その間に未普及地区にガスを何万件と引いたり、多摩ニュータウンの最初からたずさわりガスを引いたり、熱量変更を完遂させたり、ガス事故の処理や予防にあたり大きな事故になるのを未然に防止したりした。また本社でガスに関する特許管理や普及の仕事をした。高校時代と違う、まさに社会での経験を各職場でしました。
平成12年(2000年)に定年退職。その後3年間嘱託勤務し退職。

近況 在職中に定年後に人の役にたつボランティアをしたいと思い腹話術の勉強をした。定年後から現在まで老人施設を慰問し芸能ボランティアをしたり、横浜人形の家でガイドボランティアをしている。また芸能ボランティアをするための芸の勉強を種々している。



平成24年度総会資料

平成23年度事業報告

活動目標であった

1. 同窓会会報の発行。10月25日に発行する事が出来ました。
講演会の開催。 3月24日開催予定が延期となっていました。7月19日に開催出来ました。12月21日に開催予定が日程の都合で開催中止となりました。
2. 行事（催し事）。
 - (1) 平成23年4月7日 母校入学式 2名出席 於:母校体育館
 - (2) 4月24日 役員会 12名出席 於:母校
22年度収支決算及び23年度予算案の検討、総会に関する検討、その他
 - (3) 6月5日 23年度同窓会総会 24名出席 於:グランド・パレスホテル
 - (4) 7月19日 講演会 8名出席 於:母校体育館
講師 11CB 渡邊信義さん「絆」と題して
 - (5) 9月30日 体育祭 2名出席 於:母校校庭
 - (6) 10月9日 役員会 11名出席 於:母校校長室
講演会開催の件及び会報発行の件の検討、その他
 - (7) 10月29日 中工祭（卒業生の歩み出展） 於:母校
 - (8) 12月18日 役員会 11名参加 於:グランド・パレスホテル
講演会の件、その他
 - (9) 2月5日 新春交歓会 19名出席 於:グランド・パレスホテル
 - (10) 3月3日 母校卒業式 2名出席 於:母校体育館

平成23年度収支決算書

収入の部

入会金	96.000.	3.000. × 32名
会費	388.000.	2.000. × 194名
寄附金	256.000.	
臨時会費	182.000.	総会、役員会、新春交歓会
返戻金	110.451.	学校より
預金利子	241.	
小計	1.032.692.	
前期繰越金	2.187.755.	
合計	3.220.447.	

支出の部

行事費	134.362.	中工祭、講演会、新春交歓会
会議費	157.630.	総会、役員会
通信費	102.447.	
会報費	691.956.	会報印刷、発送料
事務用品費	11.263.	
卒業記念品代	45.360.	
部活動助成費他	135.785.	体育祭参加賞(85.785.を含む)
義援金	50.000.	岩手県立宮古工業高等学校同窓会様
慶弔費	10.000.	お見舞い(同窓会役員)
振込み手数料	23.600.	
小計	1.362.443.	
次期繰越金	1.858.014.	内訳 三菱東京 1.445.683.
合計	3.220.447.	郵便貯金 399.700. 現金 12.631.

収支決算について上記の通り報告致します。

平成24年4月14日 会計 中村 真一 会計 島田 勝利

収支決算について関係書類を監査した結果、適正に処理されている事を認めます。

平成24年4月22日 会計監査 西村 満郎 会計監査 江野下 健二

平成24年度事業計画（案）

基本計画

基本的には前年度を踏襲するが、さらに親睦を深め母校への支援を強化していく。会報の発行、文化祭への「卒業生の歩み」を充実していく。

1. 同窓会会員の親睦を一層深めるため、おおいにアピールをする。
2. 同窓会会報の発行。
3. 行事（催し事）。
 - (1) 母校入学式（4月9日）（同窓会より2名出席済み）
 - (2) 平成23年度定時総会（6月3日）
 - (3) 母校体育祭（9月28日）
 - (4) 母校文化祭（中工祭）（11月3・4日）卒業生の歩み出展
 - (5) 新春交歓会（2月上旬）
 - (6) 母校卒業式（3月2日）
 - (7) 講演会（12月下旬）
 - (8) 役員会の随時開催（2ヶ月に1回程度）

平成24年度収支予算（案）

収入の部

会費	400.000.	2.000. × 200名
寄附金	260.000.	
臨時会費	200.000.	
入会金	96.000.	3.000. × 32名
前期繰越金	1.858.014.	
合計	2.814.014.	

支出の部

行事費	140.000.	中工祭、新春交歓会、その他
会議費	160.000.	総会、役員会、新会員歓迎会、その他
通信費	100.000.	各種案内、その他
会報費	690.000.	会報印刷、発送料
事務用品費	10.000.	
卒業記念品代	50.000.	
ホームページ費	260.000.	学校のホームページ更新ソフト費用
振込み手数料	30.000.	
予備費	1.374.014.	
合計	2.814.014.	



H24-10-25発行